



日本骨髄バンクの現状（2018年12月末現在）

	11月	12月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,061	2,853	493,627	758,473
患者登録者数	239	253	2,930	55,511
移植例数	118	78	—	22,704

■12月年代別ドナー登録者数（現在数）

10代 4,503人

20代 74,220人

30代 136,149人

40代 211,816人

50代 66,939人

■12月の20歳未満の登録者 404人

■12月の区分別ドナー登録者数：献血ルーム／835人、献血併行型集団登録会／1,941人、集団登録会／42人、その他／35人

■12月末までの末梢血幹細胞移植（PBSCT）累計数：625件

■骨髄バンクを介して2回提供された方（累計数）：1,674件 ■DLI（ドナーリンパ球輸注）療法の実施件数（累計数）：856件

■国際協力の現状（2018年10月～12月）

【海外ドナー⇒国内患者】移植数：1件（NMDP）、累計移植数：190件 【国内ドナー⇒海外患者】移植数：0件、累計提供数：271件

注1）2018年11月から、海外患者については国内患者への対応に準じ、1年以上ドナーコーディネートを進めていない患者を取消しているため、患者登録者数が前月比で560人減少しています。

注2）数値は速報値のため訂正されることがあります。

1 2018年移植数およびコーディネート状況

2018年12月末現在の累計移植数は22,704件（うちPBSCTは625件）になりました。2018年1月～12月の移植数は1,216件（国内ドナー⇒国内患者：1,208件、海外ドナー⇒国内患者：3件、国内ドナー⇒海外患者：5件）でした。2017年の件数（合計：1,251件、国内ドナー⇒国内患者：1,245件、海外ドナー⇒国内患者1件、国内ドナー⇒海外患者5件）と比べ、総数で35件減少し、前年比97%でした。PBSCTは205件で、前年（165件）と比べて40件増加しました。

コーディネート件数は、確認検査数が4,828件（前年4,620件、前年比105%）、最終同意が1,457件（前年1,508件、前年比97%）でした。

骨髄採取のコーディネート期間について、ドナーコーディネート開始から採取までの中央値は112日で、前年の116日より4日短縮しました。一方で、末梢血幹細胞採取のコーディネート期間の中央値は101日で、前年103日より2日短縮しました。

ご提供いただいたドナーの方をはじめ、採取施設の担当医師、調整医師の先生方やコーディネーターの方々、その他多くの関係者のご尽力とご協力に感謝を申し上げます。

2 2018年ドナー登録者数 35,085人

2018年1月～12月の新規ドナー登録者数は35,085人でした。2017年の34,491人に比べ、594人の増加となり（前年比102%）、4年連続で前年を上回りました。

新規ドナー登録者数を押し上げた要因として、大学等の献血会場における登録会の増加が上げられます。こうした傾向はとくに神奈川県、東京都、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、島根県、岡山県、熊本県、沖縄県で顕著となっています。その背景には、これらの地域で行政・日本骨髄バンク・日本赤十字社の三者の協力体制を基盤とした若年層に向けた継続的な取り組みがあり、具体的な成果につながっていることが伺えます。一方で、12月は全体の取消数が登録数を上回り、ドナー登録現在数は前月を割り込む結果となりました。

ご協力いただいたドナー登録者の方々をはじめ、ドナー登録推進にご尽力いただいた説明員の方々、支えていただきました関係者の方々に厚く御礼申し上げます。今後もよりいっそう若年層ドナーの登録推進が求められています。みなさまのさらなるご協力をよろしくお願いいたします。



3 平成31（2019）年度 国庫補助金 4 億 6200 万円

平成 31（2019）年度造血幹細胞移植対策関係予算案の概要が明らかになりました。骨髄移植対策事業費（骨髄バンク運営費）は昨年度とほぼ同額の約 4 億 6200 万円です。企業等に対するドナー休暇制度導入によるコーディネート期間短縮の取組みや、若年層を対象としたさらなるドナー登録者の確保対策が評価されました。

4 初の「都道府県骨髄バンク担当者会議」実施

当法人主催の「都道府県骨髄バンク担当者会議」を 11 月 30 日に開催しました。各都道府県の骨髄バンク担当者が一堂に会する初の研修会で、46 の都道府県が参加しました。

ドナー登録推進をさらに強化するため、各地の骨髄バンク推進連絡会議の設置の意義、学校での語りべ講演会の重要性、および若年層をターゲットにしたドナー登録会の都内でのトライアル事例の報告を行い、最新の情報と目指すべき方向性を認識共有しました。さらに、長野県、神奈川県、兵庫県のドナー登録推進対策の事例発表、6 ブロック別のグループ討議による熱のこもった情報交換が行われました。各地の骨髄バンク事業の活性化が期待されます。

5 ドナー助成制度、新たに 1 町で導入

新たに 1 町で、骨髄バンクを通じて骨髄または末梢血幹細胞を提供したドナーのための助成制度が導入されました。全国で 433 市区町村になります。

助成内容は各自治体によって異なりますので、直接お問い合わせください。当法人ホームページに問い合わせ一覧を掲載しています。

◇HOME > ドナー登録されている方へ > 骨髄・末梢血幹細胞の提供までの流れ > 提供ドナー助成制度を導入している地方自治体・民間団体

■新たに導入した自治体：美郷町（島根県）

6 「BANK！BANK！」Vol.13 発行のお知らせ

骨髄バンク・さい帯血バンクを身近にするための造血幹細胞事業広報誌「BANK！BANK！（バンクバンク）」の最新号が 1 月に日本赤十字社より発行されました。今回は“骨髄バンク・さい帯血バンク学び旅”と題して、平成の時代とともにめざましく発展した造血幹細胞移植の歴史をタイムトラベル形式で振り返ります。ぜひご覧ください。

<http://www.bmdc.jrc.or.jp/bankbank/index.html>

7 当法人の会議等開催予定

会議の傍聴をご希望の方は、事前に当法人総務部までお申し込みください（非公開除く）。

会議名	公開・非公開	開催予定
業務執行会議	公開・一部非公開	1月21日（月）18時～20時 廣瀬第2ビル地下会議室
ドナー安全委員会	非公開	2月17日（日）12時半～16時半 廣瀬第2ビル地下会議室
医療委員会	公開・一部非公開	3月21日（木・祝）13時～16時 廣瀬第2ビル地下会議室

**コーディネーター関係者のコーナー**

以下は、医師およびコーディネーターの皆さまを対象としています。

8 骨髄バンクドナーを対象とした救急救命士による気管挿管実習の禁止について【再通知】

非血縁ドナーが骨髄を提供する際に、救急救命士が気管挿管実習の一環として全身麻酔時の気管挿管を行ったという事例が報告されました。

当法人は、2010年に日本麻酔科学会に対して「救急救命士による骨髄バンクドナーに対する気管挿管実習の可否」について検討を依頼しました。その回答をもって、各認定施設に対し「骨髄バンクドナーを対象とした救急救命士による気管挿管実習について（通知）」（2010年3月15日付）を発出し、こうした実習行為を禁止とした経緯があります。今回、同様事例が報告されたことから、再発防止のため再度通知します。詳細は別紙をご確認ください。

9 「2019年全国調査 台帳登録提出のお願い」について <移植施設の方へ>

一般社団法人日本造血細胞移植データセンター（JDCHCT）／日本造血細胞移植学会（JSHCT）から発出された「2019年全国調査 台帳登録提出のお願い」でご案内のとおり、「台帳登録」の提出がされていないと、原則として移植施設認定の更新が行われません。

台帳登録の提出期限は2月20日までとなっています。必ずご提出くださいますようお願いいたします。詳細はJDCHCT ホームページをご参照ください。

<http://www.jdchct.or.jp>

10 2019年度調整医師委嘱更新手続きについて <調整医師の方へ>

マンスリーJMDP 2018年12月号でご案内のとおり、2019年度も調整医師委嘱更新手続きが必要な先生方には1月中旬以降、順次更新書類を発送します。2016年度から委嘱期間を1年とし、原則として委嘱期間満了の2カ月前までに申し出がない限り自動更新となりましたが、院内の手続き上、更新書類が必要な場合は、ドナーコーディネーター部までご連絡ください。

異動等のご予定がある先生方は、同封の「調整医師異動等連絡票」をドナーコーディネーター部にFAXいただくか、地区事務局にご連絡ください。異動先でもご協力いただける先生方には、後日改めて異動先での調整医師委嘱書類を送付しますので、手続きをお願いします。

11 連絡事項**■各種年間データについて**

今号では、「コーディネーター件数（月次データ）」の他に、「コーディネーター件数（2018年実績）」「コーディネーター期間（2018年実績）」を同封します。